

## アフリカ豚熱とワクチン開発の現状と課題

**舩甚 賢太郎 先生**

農研機構 動物衛生研究部門  
越境性感染症研究領域 アフリカ豚熱ユニット

**日時：2020年9月16日（水） 13:15 - 14:45**

**場所：オンライン開催**

### 【要旨】

アフリカ豚熱(African swine fever: ASF)は、アスファウイルス科アスフィウイルス属に分類される唯一のウイルス種であるASFウイルス(ASFV)の感染によって引き起こされる豚及びイノシシの悪性伝染病である。ASFVは直径約200nmの正二十面体をした巨大なウイルスで、190kbpにもおよぶ長大な二本鎖DNAをゲノムにもち、感染から出芽までに150以上の遺伝子が発現することが知られている。ASFの症状は、ウイルス株の病原性の違いや宿主によっても異なるが、概ね42℃前後の持続的な高熱、食欲不振及び元気消失を認め、発症から7-10日前後で死亡し、致死率はほぼ100%に達する。本病はその名が示すようにアフリカに常在する疾病であるが、1950年代後半には欧州、中南米の国々に伝播して多大な損失をもたらした過去がある。この歴史は繰り返されることとなり、2007年ヨーロッパ大陸にASFVが再侵入した。黒海沿岸の国ジョージアで始まったASFの発生は、ロシアおよび欧州へと拡がり、現在もその発生は続いている。2018年には世界最大の養豚国である中国でアジア圏初となるASFが発生し、中国国内で急速に拡散した。その後、ASFは近隣諸国へと拡がり、東アジアおよび東南アジアの国々に甚大な被害をもたらしている。このASFのまん延の理由の1つに未だ有効かつ安全なワクチンが開発されていないことが挙げられる。さらなる拡散が懸念される本疾病の防疫対策を講じるためにもワクチン開発およびその実用化が急務の課題となっている。本講演ではASFの特徴から最新の発生状況を概説するとともに、ASFワクチンの研究開発の現状と課題について紹介する。

